

第9回日本アゼルバイジャン経済合同会議

はじめに

2017年2月23日、アゼルバイジャンの首都バクーにおいて、日本アゼルバイジャン経済委員会およびアゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会主催の下で「第9回日本アゼルバイジャン経済合同会議（以下、合同会議）」が開催された。

今回の合同会議開催にあたって、小林洋一日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)副会長（以下、会長）を団長とする同経済委員会会員企業代表および日本の政府関係者、企業代表者約55名がアゼルバイジャンを訪問し、アゼルバイジャン側からは、シャリホフ・アゼルバイジャン共和国副首相兼国家委員会議長（以下、副首相）を団長とする同国政府関係者20名が参加した。会議では、両国議長より開会挨拶、基調報告が行われるとともに、両国代表から、アゼルバイジャンの経済情勢、経済政策の方向性、様々な分野における日本とアゼルバイジャンの協力の現状と展望等についての報告が行われた。

以下では、第9回合同会議の概要として、アゼルバイジャンの経済について包括的かつ詳細な情報を網羅したシャリホフ副首相による基調報告と全体のプログラムを紹介する。

第9回日本アゼルバイジャン経済委員会合同会議 プログラム

日付	時間	プログラム
2017年 2月23日	10:45-11:00	シャリホフ副首相と会長の面談
	11:00-13:00	【開会挨拶】 A.シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相 小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)副会長 松村祥史・経済産業副大臣 高橋二雄・駐アゼルバイジャン日本国特命全権大使
		【基調報告】 A.シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長 小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長
	13:00-14:45	昼食
	15:00-17:00	【報告】 ◆アゼルバイジャン側報告① N.サファロフ 経済省次官 「非石油セクターの発展と投資環境整備政策」 「アゼルバイジャン経済の展望に関する戦略的ロードマップ」 「アゼルバイジャン被占領地域における外国人および外国法人の非合法経済活動の非承認」 ◇日本側報告① 長島公一 丸紅(株)プラント本部 本部長付部長 「Economic Growth through Diversification of Industries (TBC)」 ◆アゼルバイジャン側報告② N.サマドフ 文化・観光省次官

		「アゼルバイジャンの観光発展政策、観光産業への投資の可能性、および『ASAN 査証制度』の導入について」 「アゼルバイジャンの観光発展に向けた戦略的ロードマップ」 ◇日本側報告② 伏見勝利 国際協力機構（JICA）ウズベキスタン事務所長 「JICA's Operation in Azerbaijan」 ◆アゼルバイジャン側報告③ J.パイラモフ 教育省次官 「教育分野における日本との協力の可能性」 ◇日本側報告③ 西川洋 (株)前川製作所 大型プロジェクトセンターグローバルシステム 推進センター ロシア・CISリーダー 「アゼルバイジャンでのチキン工場での実績紹介」 ◆アゼルバイジャン側報告④ E.アガエフ 保健省次官 「保健分野における日本とアゼルバイジャンの協力」 ◆アゼルバイジャン側報告⑤ I.フセイノフ アゼルバイジャン鉄道副社長 「アゼルバイジャンの輸送・トランジットの可能性および、バクー〜トビリシ〜カルス 鉄道と同路線による日本製品の輸送能力」 ◇日本側コメント：増子隆太郎 伊藤忠商事(株)イスタンブール事務所 トルコ代表 ◆アゼルバイジャン側報告⑦ タナカ Silk Way West Airlines日本代表 「Silk Way航空の活動と協力の可能性について」 ◇日本側報告④ 寺島浩司 パナソニックマーケティングCIS(株) 部長 「Panasonic Photovoltaic Module / HIT」 ◆アゼルバイジャン側報告⑧ F.サファロフ SOCAR副社長（経済担当） 「SOCARのプロジェクトと日本との協力」 【質疑応答】 ◇日本側総括コメント：太田道彦 日本アゼルバイジャン経済委員会副会長 ／丸紅(株)副会長 【閉会挨拶】 小林洋一・日本アゼルバイジャン経済委員会会長／伊藤忠商事(株)副会長 シャリホフ・アゼルバイジャン共和国日本経済協力国家委員会議長・副首相 【署名式】 ・第9回経済合同会議議定書
--	--	--

シャリホフ副首相基調報告(抄訳)

シャリホフ副首相の基調報告では、アゼルバイジャンの経済について包括的かつ詳細に述べられているので、以下のとおり抄訳を掲載する。



尊敬する松村経済産業副大臣、小林日本アゼルバイジャン経済委員会会長、高橋大使、ご列席の皆様。アゼルバイジャンへようこそ。

アゼルバイジャンは深い歴史と、豊富な文化や伝統を持つ国であり、去年は独立25周年を迎えました。アゼルバイジャンの長い歴史の中で25年は短い期間ですが、国民はこの期間、長い発展の道のりを辿ってまいりました。

日本は1991年12月にアゼルバイジャンの独立を承認し、我が国との関係構築を最も早く始めた国の1つであります。今年、我々は外交関係樹立25周年を迎えます。この25年間、日本政府および日本国民の恒常的な支援にはたいへん感謝しております。当時から両国は互惠と友好に基づく実りある協力関係を維持しています。

2016年4月29日、日本政府は天皇陛下による勲章を授与される外国人の名前を発表し、光栄にも私の名前がその中に挙げられ、旭日大綬章をいただきました。改めて、天皇閣下、日本政府の皆様には感謝いたします。これは、我々がともに達成した成果であります。

両国の協力関係が始まった日から今日まで、日本政府はアゼルバイジャンに対して総額約9,000万ドルに上る234件の技術支援を実施し、プロジェクトの中には、保健、教育、文化、スポーツ、輸送、農業、発電、灌漑や埋立てといった重要なプロジェクトが含まれております。現在も実施中のプロジェクトを含めて、保健分野で960万ドル、スポーツ分野で45万ドル、文化関連で75万ドル、輸送セクターで750万ドル、教育分野で80万ドル、電力分野で790万ド

ルとなっており、加えて、無償支援協力と技術協力が310万ドルにのぼります。

この間に、灌漑および水管理に関する2つのプロジェクトが日本政府の支援によって成功裏に行われております。総額1,450万ドルもの日本の機器、工場設備、部品などが修正・メンテナンスサービスのために購入されました。様々な機械を活用したおかげで、灌漑網や排水システムがこのプロジェクトにおいて活用されております。

また、日本政府による財政支援を受けて、農業分野においても重要な事業が行われていきます。日本政府による2KR（貧困農民支援）プログラムの下で、総額2,855万ドルにおよぶ9つのプロジェクトが行われてきました。無償支援を通じて購入した設備を使用することで集められた資金が2004～2013年の間に744種類もの農機の購入に費やされました。同様に、1,637の様々な農機が日本政府の2KRプログラムの下で購入され、個人や法人にも提供されました。我々はこのプロジェクトが継続することを楽しみにしております。

二国間のダイナミックな関係発展の別の例として、駐アゼルバイジャン日本大使館による「草の根・人間の安全保障無償資金協力」による我が国での活動を挙げるができます。2000年から現在まで、この支援の枠組みで総額1,800万ドルにおよぶ211件のプロジェクトが行われており、教育、保健、農業、インフラ、環境などあらゆる分野で各地方、医療機関、教育機関などの改善が行われております。

これに加え、440人ものアゼルバイジャンの専門家が、災害救援、上下水道システムの再建、代替・再生可能エネルギー、灌漑、教育、保健、農業などの分野の日本での研修に、日本の財政支援で参加しています。2016年にはこれらの研修プログラムに31人のアゼルバイジャンの専門家が参加しました。我々は日本政府、日

本の機関や企業、特に経済産業省、外務省、大使館、JBIC、JICA、JETRO、NEXIによる、このような支援に深く感謝しています。

私は、アゼルバイジャン日本経済協力国家委員会と日本アゼルバイジャン経済委員会の活動も強調する必要があると思います。というのも我々が両国の経済関係の発展にとって需要かつ互恵的な問題を討論する新たな機会を開き、実施してきたからであります。

当然、日本との協力の最初の分野はエネルギーであり、石油・ガス分野であります。日本企業はカスピ海の炭化水素資源の採掘、生産、輸送、ダウンストリームに深く関わっています。しかし我々は、現在の両国関係の発展の段階において、またアゼルバイジャンの現在の経済状況に基づくと、経済のあらゆる分野で協力の機会があると信じています。

アゼルバイジャンの国民的指導者であるG. アリエフ前大統領は、外国企業との協力の新たな可能性を開くという政策によって、1994年に結ばれた「正規の契約」を主導しました。ACG油田の開発によって、数年後にはアゼルバイジャンの石油が世界に輸出されました。アゼルバイジャンの石油を世界市場に輸出している日本企業に感謝したいと思います。

アゼルバイジャンはカスピ海の膨大なエネルギー資源を世界市場に送り出した最初の国であります。アゼルバイジャンの最も重要な役割の1つがカスピ海と黒海や地中海地域をパイプラインで結ぶということでもあります。

我々は現在、「南ガス回廊」と呼ばれるグローバルなエネルギープロジェクトに取り組んでおりますが、これが実現した暁には、たくさんの国々にとってアゼルバイジャンは信頼のおけるガス輸出国となります。プロジェクトのコストは約450億ドルで、アゼルバイジャンが実施の主導的な役割を果たしています。世界最大規模のガス・コンデンセート鉱床の1

つである「シャフ・デニス2」プロジェクトの90%はすでに遂行されており、来年には完了すると思います。TANAPプロジェクトの大部分もすでに実施されております。

我が国のエネルギー政策は国益に依拠するものであり、アゼルバイジャンはこの分野における責任を果たしていく必要があります。

同じことを輸送回廊の創設についても申し上げることができます。我が国は有利な地理的位置にあります。ふさわしいインフラがなければそのような優位性は何の意味も持ちません。つまり、我々の努力は、輸送分野におけるこの地域の協力関係を構築することに向けられています。特に、アゼルバイジャンから西ではバクー〜トビリシ〜カルス（BTK）鉄道の建設に関する作業が重要な位置を占めており、これは「東西輸送回廊」の枠内で行われているものです。このプロジェクトは今年の後半に最終的に稼動することを期待しております。この機会に、年末までに完成を予定している回廊を有効活用する日本企業にぜひアゼルバイジャンにお越しいただきたいと思います。繰り返しになりますが、このプロジェクトが実現すると、今まで海を通じて45日かかっていたところが、鉄道を使うことで10〜12日短縮することができます。

また、もう1つ実施中のプロジェクトが「南北回廊」です。アゼルバイジャンはこのプロジェクトにおいても重要な位置を占めており、実施に真剣に取り組んでおります。2つの回廊によって新たな活動のエリアが誕生し、経済成長と産業発展を推進し、様々な国や企業が時間を節約して貨物の輸出を実現できることがお分かりいただけたと思います。「東西回廊」および「南北回廊」を通じて貨物を輸送する企業は2週間もの時間を節約することができます。

アリエフ現大統領による第2の経済政策の

おかげで我が国では安定した民主主義が構築され、マクロ経済の安定かつダイナミックな経済成長の安定した基盤が確立されています。目標に向けた断続的な努力によって、非石油セクターおよび地方の発展が加速しており、国家が企業を支援し、恵まれたビジネス・投資環境が発展しています。

ここ数年の国民経済の重要なプライオリティは非石油セクターの発展であります。この分野において、ここ数年間でいくつもの成果が現れています。現行の経済改革のおかげで経済が多様化され、産業の発展がGDP成長率に表れています。

農業に関連していくつもの重要な措置が取り組まれています。農業従事者はいくつもの特権が与えられており、例えば、土地税を除くあらゆる税金が免除されています。低い金利やローン、燃料、肥料、特定の機関の補助金などが含まれます。アゼルバイジャンと日本との間の農業分野の協力を期待しておりますが、そのためにまずは、アゼルバイジャンで生産された果物や野菜、加工品、アゼルバイジャン産ワインなどの日本市場への輸出を促進し、この市場へのアクセスを簡素化し、必要な措置をとる必要があります。10年前も我が国のワイン製品やいくつかの農産品についてたくさんの試みを行い、一時的な契約によって一部の製品を日本市場に出しました。しかし残念なことに時期尚早だったのか、何の成果もありませんでした。したがって、ここで日本の代表の方々に改めてお願いしたいと思います。もちろん、非石油セクターは農業分野だけではなく、ぜひこの分野を強調させていただき、我々に対する支援が必要だということを明確にさせていただきたいと思います。

さて、非石油セクターの主要な分野の1つとして観光業の発展についても国で継続的な

事業が行われております。国の有益なポテンシャルをより効率的に活用するために先進的な国際的事例を学び、さまざまな活動を現在行っております。私が知る限り、日本は最も観光に関心のある国で、日本人は頻繁に旅行しているようですが、残念なことにアゼルバイジャンは日本の旅行者の目的地とはなっていないようです。しかし、なぜ日本人がアゼルバイジャンに来ないのかと責めることは間違いであり、我々がこの点について真剣に取り組まなければならないでしょう。

アゼルバイジャンは観光という観点からとても魅力的な国です。アゼルバイジャンは豊富な文化遺産を有しており、我々の歴史的建造物や古代文化が観光客を魅了しています。一方でアゼルバイジャンは近代的に発展した国家でもあり、観光インフラはとても発達しています。アゼルバイジャンには素晴らしい料理があり、最適な気候があり、国民は皆ホスピタリティに溢れ、安定かつ安全な環境があります。2017年1月10日にE-visaを発行するために設置されたASAN査証システムのおかげで査証制度の簡素化も行われています。したがって、かつてはアゼルバイジャンを訪れるために査証取得の問題がありましたが、現在はこの問題は大幅に緩和しています。

税制や通関業務もより効率化され、税と関税の制度の改善が図られ、根本的な改革が行われ、透明性とフレキシビリティが達成されています。

昨年、アゼルバイジャンで生産された製品の質と安全性の向上や輸送能力の拡大に向けて必要な措置が採られました。今後は、外国との貿易がさらに自由化され、透明性とフレキシビリティを達成するために要求される国際基準に合わせた国家基準が導入され、国際基準に基づいて国内の技術基準や新しい用件が適用されるようになるでしょう。

昨年、アゼルバイジャンには総額11兆7,000億ドルの国内外の投資が行われました。

いくつものインダストリアルパークがアゼルバイジャンには設置され、設立プロセスは今も続いています。スムガイト化学インダストリアルパークでは大規模なプラントが建設されており、そこでの投資は10億ドルを超えています。ミンガチェヴィル・インダストリアルパークも昨年設立されました。ここでは第1フェーズとして9つの近代的な繊維工場の建設が予定されており、軽工業の発展が目指されています。昨年はカスピ海に近い島、ピラライでも製薬工場の起工式が昨年行われました。2つの新しいインダストリアルゾーンと観光インフラがピラライ島に設置される予定です。バラハニ・インダストリアルパークや他にも多くのパークの設置作業が進んでいます。

そのため、我々はインダストリアルパークにおける日本との協力の深化を期待しています。様々な投資プロジェクトへの日本企業の関与がアゼルバイジャンで設置されているインダストリアルパークにとっても重要な意味を持ちます。スムガイトとバラハニは経済発展省、ピラライは運輸・通信ハイテク省が管理しておりますので、プロポーザルなどがあれば、大歓迎いたします。

代替・再生可能エネルギーの分野も近年はアゼルバイジャンにおいて優先分野であります。我が国では最新のソーラープラントや風力発電所の建設に高いプライオリティをおり、この分野で主要な日本企業と協力を確立することを望んでいます。関連する日本企業や機関にぜひ提案をお伝えいただきたいと思います。

我々はアゼルバイジャンと日本との協力がすべての経済分野において拡大することを望んでいます。我が国の経済の非石油セクターの更なる発展と創設が重要であります。本日

の第9回合同会議がダイナミックなアゼルバイジャン日本関係の発展の拡大と深化に重要な役割を果たすことを望んでおります。改めまして、皆様の本日の活動および今後の成功を祈念して私の基調報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(構成：ROTOBO事務局)